

2023年度の主な事業報告

●独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ振興くじ助成事業は下記の通りです。

■第24回ジャパンオープン



水引トロフィー

11月18日(土)、19日(日)に石川県金沢市総合体育館にてフレンドリーカップが開催されました。一部の部門で重複エントリーが可能という初の試みを実施。条件や申し合わせ事項の面で今後の課題も出てきましたが、2日間思い切りキンボールスポーツを楽しんだ方も多かったようです。大会当日、同会場でスポーツ庁主催の「地域スポーツコミッション協議会 in 金沢」が開催されており、出席者が大会を観戦し、希望者にはキンボールスポーツを体験していただきました。また、スポーツコミッションと競技団体との全国大会マッチングが開催され、日本連盟のブースにも数団体が訪れ、対応した黒川専務理事の説明を熱心に聞いていました。今大会の協力団体である金沢文化スポーツコミッションが今大会とイベントの日程を合わせてくれたお陰です。また、参加賞の金沢カレーやジュニア部門の優勝チームに豪華な水引トロフィーを提供していただきました。水引トロフィーは今後持ち回りになる予定です。

2月4日(日)に東京にある国立オリンピック記念青少年総合センターにてチャンピオンズカップが開催されました。全体で30チームとコロナ禍前のチーム数には及びませんが、コロナ禍で落ち込んだ時に比べて盛り返してきています。この大会にはケベック州政府在日事務所からローラントレンプ氏をはじめとするスタッフの方々を観戦に来られました。ケベック州政府在日事務所は、カナダ・ケベック

州政府の代表部として、日本でのケベック州の活動推進を担っている団体で、ケベック生まれのキンボールスポーツを日本に導入する際、カナダのメーカーと日本の輸入総代理店の橋渡しをしてくださいました。今回、事務所の50周年記念ということでロゴ入りボールを4個寄贈していただきました。寄贈されたボールは今後大会や講習会等で使用していきます。



ケベック州政府在日事務所のスタッフと当連盟の役員

■全国指導者講習会・研修会

2023年度は前年度よりも各都道府県連盟と協働で新規指導者講習会を多く行うことができました。

6月18日(日)に東京で、9月17日(日)に大阪で、コーチ交流会を開催しました。主にコーチ資格保持者が現在行っている指導方法や練習方法の情報交換と問題点に関する解決法を話し合い、新規のアイデアを出し合う新しい形の講習会。コーチ同士の横のつながりも構築でき、意義のある講習会になりました。

■ガバナンス強化事業

1月30日(火)に弁護士であり、同志社大学スポーツ健康科学部客員教授でもある富田英司先生を講師に招き、コンプライアンスのオンライン研修会を開催し、20数名が参加しました。事例を交えての説明は分かりやすく、今後の日本連盟や都道府県連盟の組織運営に役立つものとなりました。

●ほかの主な事業・取り組みは下記の通りです。

■アジアカップ2023・アジアオープン2023



11月4日(土)・5日(日)に韓国烏山(オサン)市のオサン・オサエク・カルチャー・スポーツセンターでアジアカップ2023とアジアオープン2023が開催されました。アジア

カップはアジアの頂点を決める大会で、日本、韓国、中国、香港、マカオに加え、初出場の台湾が参加し、日本代表は男女ともに3大会連続の金メダルに輝きました。2月より1回の合宿・強化練習を積み重ねてきた成果です。また、アジアカップと並行してアジアオープン2023も開催されました。こちらは17歳以上であれば誰でも参加できる大会ですが、プロ・ミックス部門(コート上に女子2名、男子2名)のみの開催で上級レベル。参加10チーム中3チームが日本チームでその3チームで決勝戦を戦いました。優勝はIBU(国際武道大学)。強い日本を印象付けた大会になりましたが、アジアカップでの香港の躍進が目覚ましく、男女とも日本から1ピリオドを奪っています。若いチームだけに勢いがあり、今年のワールドカップで日本の好敵手になるかもしれません。

■日本キンボールスポーツ連盟の助成金制度

日本連盟に申請できる助成金には「加盟団体助成事業」と「普通会員および加盟団体特別助成事業」があります。前者は年2回都道府県連盟が申請できますが、後者は都道府県連盟の他、クラブや会員の皆さんが随時申請できるものです。2023年度も両助

成金制度を利用した都道府県連盟やクラブがいくつかありますが、新規の事業やアイデアがあったものを紹介します。

まずは宮城県のクラブMKSC2012の9月3日に開催された「第1回宮城ビーチキンボールスポーツ大会 in 月浜」。大会前には全員で砂浜の清掃を行い、個人申し込みの10代~50代のプレーヤー約20人が3チームに分かれてプレーを楽しみました。風の影響を受けて予測不能なボールの位置、灼熱の太陽、熱い砂、響く歓声。観客も集まり、このスポーツのアピールにもなりました。次に三重県のクラブ友夢想家の「友夢想家CUP」。クラブ創立22周年大会で、全国から35ものチームが参加しました。一部の部門で独自のルールを設定することでオフィシャル部門にチャレンジする人が増えたり、プログラムのペーパーレス化を図り経費削減に貢献しました。フライング・ディスクのアルティメットの大会では申し込みからプログラム、対戦表、結果まで全てネットで行う大会もあるそうです。大会の特長や規模にもよりますが、一考に値する試みです。

■その他の活動

(公財)スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業として7月9日(日)に宮城県で、7月23日(日)に福岡県で講習会を開催しました。宮城県ではB級レフリーの更新講習会及びC級レフリーのフォローアップ講習会を開催し、北海道や秋田県からの参加もありました。福岡県では体験会及びリーダー資格取得講習会を行い、70名超の参加者が集い、最後は交流試合を行いました。